

主要国・国際機関等のニュース記事一覧

対象期間		2024年10月9日～2024年11月7日																				
注目 記事	No.	公開日	機関名	キーワード	ニュースタイトル(原文)	ニュースポイント(短文)	内容	感染症種別	ニュース種別												リンク1	リンク2
									当該機関の 戦略/方針	ワクチン 開発進捗	取組		資金提供			イベント	組織設立・ 再編	感染症状況				
											当該機関	支援対象	重点感染症	その他 疾患	外部から 当該機関へ							
★	1	2024/10/9	CEPI	mRNAワクチン、シェ フィールド大学、 RNAbox、100日 ミッション	New vaccine-making process could transform pandemic response	CEPIは、英国シェフィールド大 学による新たなmRNAワクチン 製造プロセス RNAboxの研究 開発に最大370万ポンド(480 万米ドル)の資金を提供するこ とを発表	CEPIは、シェフィールド大学による新たなmRNAワクチン製造 プロセスRNAboxの研究開発に最大370万ポンド(480万米 ドル)の資金を提供することを発表した。シェフィールド大学は この資金を用いてRNAboxのproof-of-concept(概念立 証)実施を目指す。 RNAboxは、mRNAワクチンを世界中の小規模生産拠点で現 地生産するように設計した特注製造プロセスである。従来のm RNAワクチン製造はバッチプロセスで行なわれるが、RNAbox は連続プロセスを用いて、一回で7～10倍のmRNAを製造可 能であり、原料の利用効率も高い。本技術を用いることにより、 アウトブレイク発生地点の近くで低コストかつ迅速にワクチンを 製造できる。これは100日ミッションの達成にとっても重要で あり、ワクチンへの公平なアクセスも促進される。シェフィー ルド大学の研究者は、低・中所得国のワクチン製造業者と協力し、 この技術が資源の限られた環境でも目的に適していることを確 認する予定。	感染症全般	●		●		●		●						リンク	
	2	2024/10/10	WHO	ワクチン、AMR	Better use of vaccines could reduce antibiotic use by 2.5 billion doses annually, says WHO	WHOがワクチンがAMR対策に 与える影響に関する報告書を発表し、ワクチン使用を改善する ことにより毎年25億回分の抗 菌薬使用を削減できると試算	WHOは、ワクチンが薬剤耐性(AMR)対策に与える影響に関す る報告書“Estimating the impact of vaccines in reducing antimicrobial resistance and antibiotic use”を公表した。報告書では、実用化済み及び今後実用化さ れるワクチンの使用により、薬剤耐性菌の発生と抗菌薬使用量 がどれぐらい削減できるかを試算している。 報告書では、24種類の病原体(細菌19、ウイルス4、寄生虫1) に対する44種類のワクチンを対象にしている。淋菌を除く23 種類の病原体に対するワクチンにより、毎年22%、25億回分 (DDD)の抗菌薬使用が削減される、と試算している。これらの ワクチンの中には実用化済みだが十分に使用されていないも の、今後実用化が必要なものが含まれるが、他のワクチンも早 急に開発し、市場に投入する必要がある。 例えば、子供と高齢者に対して肺炎球菌ワクチンの接種を進め ることにより、3,300万回分の抗菌薬が削減可能となる。結核 では、ワクチン開発により、12～19億回分の削減が期待され る。 ワクチンへの投資を増やすことで、薬剤耐性による死亡を回避 し、抗生物質の使用を減らし、薬剤耐性感染症の治療費を節約 することができる。	薬剤耐性菌			●									リンク		
	3	2024/10/11	CEPI	コロナウイルス感染 症、ワクチン、研究開 発ロードマップ、ミネ ソタ大学	World-leading Coronavirus vaccine R&D roadmap to receive fresh updates	CEPIが、米国ミネソタ大学によ るコロナウイルスワクチンの研 究開発ロードマップ更新のため に320万米ドルの助成を行な うことを発表	CEPIは、米国ミネソタ大学のコロナウイルスワクチンの研究開 発ロードマップを進めるために320万米ドルの助成を行なうこ とを発表した。このロードマップは、ミネソタ大学のCenter for Infectious Disease Research and Policy (CIDRAP)が50人以上の科学的リーダーの指導を受けてロッ クフェラー財団とゲイツ財団からの資金援助を受けて2022年 に策定したもので、COVID-19や中東呼吸器症候群(MERS) の原因となるコロナウイルスや、動物からヒトに感染する可能性 のある他のコロナウイルスに対して、より効果的、かつ持続的で グローバルに利用可能なワクチンを開発するための道筋を示し ている。 CEPIからの助成は、以下のような取組みに利用される。 ・研究開発の進捗状況のモニタリング ・関連文献のデータベース化 ・ワクチンの前臨床・臨床試験のオンラインサマリー ・ファンディング・投資の状況を示すダッシュボードの制作	コロナウイル ス感染症	●		●			●						リンク		
★	4	2024/10/13	CEPI	リフトバレー熱、ワク チン、第2相試験、 オックスフォード大 学、ChAdOx1 ワク チン・プラットフォーム	Promising human Rift Valley fever vaccine to enter Phase II clinical trials in Kenya	CEPIから370万ドルの助成を 受けて、リフトバレー熱ワクチ ンの世界初の第2相試験がケニア で実施される	CEPIは、リフトバレー熱ワクチンChAdOx1 RVFの世界初の 第2相試験がケニアで実施されることを発表した。このワクチン はオックスフォード大学のChAdOx1 ワクチン・プラットフォー ムで開発され、オックスフォード大学・アストラゼナカ製の COVID-19ワクチンと同じ技術を用いている。臨床試験は、 オックスフォード大学とKenya Medical Research Institute (KEMRI)により実施され、240人の健康な成人を 対象にワクチンの安全性と免疫反応が確認される。また、臨床 試験データは、公衆衛生および研究コミュニティに役立つよう、 オープンアクセスで公開される。リフトバレー熱は、WHOとアフ リカCDCによって優先病原体に分類されている。CEPIは、こ の臨床試験に370万ドルを助成する。	リフトバレー 熱	●	●	●			●						リンク		
	5	2024/10/15	BARDA	MCM、BID2025	Save the Date – BARDA Industry Day June 30 – July 1, 2025: Enhancing Health Security With a Sustainable Future	BARDAが2025年6月30日- 7月1日に「持続可能な未来につ なぐヘルスセキュリティの強化」 をテーマとした会議 BARDA Industry Day (BID2025) を開催	BARDAは、2025年6月30日-7月1日に「持続可能な未来に つなぐヘルスセキュリティの強化」をテーマとするカンファレン ス、BARDA Industry Day (BID2025)を開催することを 発表した。会議はワシントンDCのGrand Hyatt Washingtonを会場として対面およびオンラインで開催され る。 BID2025では、米国政府の感染症危機対応医薬品等(MCM: Medical, Countermeasures)のプライオリティについて 議論するとともに、民間セクターが非公式にBARDAやASPR (Assistant Secretary for Preparedness and Response、事前準備対応次官補局)と交流する機会を提供 し、MCMの研究開発における潜在的協力分野を特定する。 BID2025に関する追加情報は、BARDAのウェブサイトおよ びソーシャルメディアで今後発表される。	感染症全般	●		●						●		リンク			

★	6	2024/10/16	CEPI	カナダNRC、ワクチン製造、迅速化、100日ミッション	Canadian scientists to optimise vaccine process for faster outbreak response	CEPIから最大85万加ドルの助成を受けて、カナダ国立研究評議会(NRC)がワクチン抗原の迅速製造技術の研究開発に着手	CEPIは、カナダ国立研究評議会(National Research Council of Canada, NRC)と連携して、ワクチン抗原の製造プロセスを短縮するための研究開発プロジェクトを行うことを発表した。 CEPIが最大85万加ドル、NRCが最大30.8万加ドルを支出し、本技術のproof-of-technology(概念立証)を行う。通常のタンパク質ワクチンの製造では、哺乳類細胞株を用いて最適化された抗原を製造するまでに4～6ヶ月を要することがある。本プロジェクトでは、迅速な抗原生産に最適な細胞株を開発し、安全なタンパク質抗原を最短2週間で製造することを目指す。本技術は100日ミッションの達成に貢献するとともに、低所得国への技術移転にも適している。	感染症全般	●		●	●	●							リンク	
★	7	2024/10/16	NIH, NIAID	Mpoxワクチン、MVA-BN	Mpox vaccine is safe and generates a robust antibody response in adolescents	NIHが資金提供した臨床研究において、MpoxワクチンMVA-BNが12-17歳の青年層に対しても安全で強く免疫反応を誘導することを確認	NIAIDが資金提供した臨床研究において、MpoxワクチンMVA-BNは12-17歳の青年層に対しても安全であり、成人と同等の強い免疫反応を誘導することが確認された。この中間結果は、10月にロサンゼルスで開催された米国感染症学会週間(IDWeek 2024)で発表された。本臨床研究では、米国在住の12-17歳の青年層に対してMVA-BNワクチンを2回接種し、その結果を18-50歳の成人と比較した。その結果、ワクチン接種にともなう抗体産生のレベルや有害事象の頻度は成人と同等と考えられた。	Mpox			●	●	●							リンク	リンク
	8	2024/10/16	WHO	UNITE グローバルサミット、パンデミック条約	Parliamentarians unite in Berlin to sign global statement supporting the WHO Pandemic Agreement	ベルリンで開催されたUNITE グローバルサミットにおいて、世界各国の国会議員がWHO/パンデミック条約を支持するグローバルな声明に署名	10月16日、ベルリンでUNITE グローバルサミットが世界保健サミット(World Health Summit)と共同で開催された。UNITE グローバルサミットは、各国の国会議員、市民の代表者、健康分野の専門家が参加するハイレベルの会合であり、議論を通じて実行可能な政策優先事項を示すことを目的とする。今回のサミットでは、UNITE議長、理事会メンバーおよび各国の国会議員が、WHO加盟国間で交渉が行なわれているパンデミック条約(Pandemic Agreement)を支持するグローバルな声明に署名した。各国の国会議員は、市民の代表として、意義のあるパンデミック条約の制定とその批准、実施を支持した。また、声明では、特に公平性、世界的な連携、法的措置、誤情報対策の4項目が強調された。	感染症全般							●					リンク	
	9	2024/10/17	CEPI	100日ミッション、ワクチンの便益、新型コロナウイルス感染症、インベリアル・カレッジ・ロンドン	100 days to save eight million lives	100日ミッションが達成されれば、800万人以上の命がSARS-CoV-2から救えたかもしれないという研究結果をインベリアル・カレッジ・ロンドンの研究グループが発表	インベリアル・カレッジ・ロンドンのMRC Centre for Global Infectious Disease Analysisの研究グループは、COVID-19/パンデミックの際にもし安全で効果的な新ワクチンを3ヶ月以内に開発するというCEPIの100日ミッションが達成されていれば、亡くなった800万人の人々を救えたかもしれないとの研究結果をLancet Global Healthに発表した。この研究は、CEPIの資金援助により実施された。この研究ではCOVID-19/パンデミックのデータをもとにした数理モデルを用いてもし100日ミッションを当時実現していた場合の救命効果、経済効果を推定した。その結果、世界全体の救命効果は830万人で、これを金銭換算すれば14.3兆ドルとなった。さらに、疾患による生産性損失が1.4兆ドル、入院費用が630億ドルが回避可能であったと考えられた。100日ミッションの便益はグローバルサウス諸国で顕著であり、低所得国で8億人のCOVID-19感染を防止し、1,570万人の入院を回避し、480万人の命を救うことが可能であったと試算された。	コロナウイルス感染症					●							リンク	リンク
	10	2024/10/18	GloPID-R	世界保健サミット、EC、将来的なパンデミック	Pandemic Preparedness at the World Health Summit	ベルリンで開催された世界保健サミット2024において、ECが将来的なパンデミックへの準備に関するセッションを開催	10月13日～15日にベルリンで開催された世界保健サミット2024(World Health Summit 2024)の最終日に、欧州委員会(EC)は”Research and Innovation on Pandemic Preparedness in the EU and Global Context”と題するセッションを開催した。パネルディスカッションには、EU、独シャリテ・ベルリン医科大学、EDCTP3、WHOなどの代表者が登壇した。パネリストは、COVID-19/パンデミックをきっかけにより広範な議論が行われるようになり、国際保健社会におけるパンデミックへの備えについて、より集中的な取り組みやイニシアティブが開始されるようになったことについて議論した。	感染症全般							●					リンク	
	11	2024/10/20	WHO	エジプト、マラリア撲滅	Egypt is certified malaria-free by WHO	約100年にわたるマラリア対策が成功し、エジプトがWHOからマラリアのない国に認定された	約100年にわたるマラリア対策が成功し、エジプトがWHOからマラリアのない国に認定された。エジプトにおけるマラリアの歴史は紀元前4000年まで遡り、1920年代からエジプト政府が対策を講じてきた。近年はマラリアの診断と治療を全国民に無料で提供すると共に、保健衛生の専門家を養成してマラリアの検出と予防を進めた。スーダンなど隣国との協力もマラリアの局地的な伝播の防止に重要であった。こうした取り組みの結果、エジプトでのマラリア撲滅が達成された。	マラリア			●								●	リンク	
	12	2024/10/22	BARDA	Sherlock Biosciences、家庭用検査キット、新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ	BARDA partners with Sherlock Biosciences to develop a molecular home-use, diagnostic test to detect and differentiate SARS-CoV-2 and influenza	BARDAはSherlock Bioscience社と連携して、SARS-CoV-2とインフルエンザを区別して診断できる家庭用検査キットの開発に着手	BARDAはSherlock Biosciences社と連携して、SARS-CoV-2とインフルエンザA+B Testは、電池式の可搬型使い捨て等温増幅キットで、呼吸器感染症状のある患者の鼻腔ぬぐい液を15分で検査できる。このキットは家庭だけでなく、医療資源が限られた遠隔地でも使用できる。この取り組みは、BARDAの2022-2026戦略計画に沿って進められる。同計画では、感染症発生に迅速に対応するため、家庭や検査所、point-of-careでの検査を進めることを重視している。	コロナウイルス感染症、インフルエンザ			●	●	●							リンク	

	19	2024/10/29	BARDA	将来的なパンデミック、研究開発プラットフォーム	BARDA announces new partnerships to develop rapidly adaptable therapeutic platforms against health security threats	BARDAは健康危機に迅速に対応可能な治療プラットフォームを構築するため、民間企業3社と新たに連携することを発表	BARDAのFASTx (Flexible and Strategic Therapeutics) Programでは、様々な病原体に迅速に適応可能なプラットフォームの開発により抗ウイルス療法の変革を目指している。今回、その一環として、Broad Agency Announcement (BAA)を実施して民間企業3社を新たに採択し、助成を行なうことを発表した。 4J Therapeutics社は、locked nucleic acid-を用いたアンチセンス核酸医薬品のプラットフォームを構築し、様々なRNAウイルスに対する治療薬の開発を目指す。GigaGen社は、ボツリヌス症を始めとする複数の病原体をターゲットとしたポリクローナル抗体医薬品の開発を進める。ModeX Therapeutics社は、RNA発現型の多重特異性抗体を用いたA型、B型インフルエンザの治療法の基礎研究を行なう。	感染症全般	●		●		●	●							リンク	
	20	2024/10/30	WHO	Mpox、緊急使用リスト、real-time PCR	WHO lists additional mpox diagnostic tests for emergency use	WHOがCepheid社とRoche Molecular System社のreal-time PCR検査キットをMpoxの新たな体外診断用医薬品として緊急使用リストに掲載	WHOは、Mpoxの正確な診断を進めるために、新たに2種類の体外診断用医薬品を緊急使用リスト (Emergency Use Listing: EUL)に掲載した。 2つの製品はいずれもreal-time PCR法を使用する。Roche Molecular Systems社のcobas MPXVアッセイ(10月14日リスト収載)は、cobas 6800/8800システムで使用され、Mpoxの2つの系統(clade)を2時間以内に検出できる。本システムは臨床検査所で大量の検体を処理するのに適する。Cepheid社のXpert Mpox(10月25日リスト収載)は、GeneXpertシステムで使用され、MpoxのクレードIIを40分以内に検出できる。 品質、安全性、性能に関するWHOの基準を満たすMpox診断検査への世界的なアクセスを確保することは、Mpoxアウトブレイクの影響を受ける環境において効率的かつ効果的な検査を行うために不可欠である。	Mpox	●		●										リンク	
	21	2024/10/31	BARDA	MCM、抗ウイルス薬、開発プラットフォーム	BARDA accelerates development of early-stage antiviral platforms with multiple collaborators	BARDAは、ウイルス感染症に初期段階で対応するため、複数の企業・大学と抗ウイルス薬等の開発プラットフォームを構築	BARDAは、ウイルス感染症に初期段階で対応するため、複数の企業・大学と抗ウイルス薬等の開発プラットフォームを構築	感染症全般	●		●		●	●						リンク		
	22	2024/10/31	BARDA	Project BioShield、天然痘、TEMBEXA、MCM	Under Project BioShield, BARDA Procures Additional Doses of TEMBEXA (brincidofovir) for Smallpox	BARDAがProject BioShield法にもとづき、天然痘の治療薬TEMBEXA(プリンシドフォビル)を追加購入することを発表	BARDAは、Project BioShield法による権限にもとづき、Emergent BioSolutions社の子会社であるEmergent Biodefense Operations Lansing社から、天然痘の治療薬TEMBEXA(プリンシドフォビル)を追加購入することを発表した。同社は2025年とその後の4年間にわたって、TEMBEXAの製造を維持するために、その製造と納品頻度を最適化する。 BARDAは、天然痘による攻撃の影響を軽減するため、2022年にTEMBEXAを初めて調達した。天然痘は世界的に根絶されたが、研究目的のために保管されており、意図的または偶発的に放出されるリスクが低いが存在する。 TEMBEXAは、天然痘治療に有効な経口低分子抗ウイルス薬であり、成人と新生児を含む小児に使用できる。今回の契約にともなう持続的な製造により、感染症危機対応医薬品等(MCM: Medical. Countermeasures)としての利用可能性を確保することが可能になる。	天然痘	●		●		●								リンク	
	23	2024/11/1	GHIT Fund	新規公募、ヒット・トゥ・リードプログラム	【RFP】新規公募案件のご案内(ヒット・トゥ・リードプログラム)	GHIT Fundが2025年度 第1回目のヒット・トゥ・リードプログラム(HTLP)の公募を開始	GHIT Fundが2025年度 第1回目のヒット・トゥ・リードプログラム(HTLP)の公募を開始	マラリア、結核、シャーガス病、リーシュマニア症	●		●		●	●						リンク	リンク	
	24	2024/11/1	WHO	WFUNA、模擬WHO、将来的なパンデミック	Global Model WHO youth delegates urge swift action on pandemic prevention, preparedness and response	WFUNA(国際連合協会世界連盟)とWHOが共催した世界模擬WHOにおいて世界各国の若者がパンデミックの予防・準備・対応についての迅速な行動を求めた	国際連合協会世界連盟(World Federation of United Nations Associations: WFUNA)とWHOは、10月29日から11月1日まで、ジュネーブで世界模擬WHO(Global Model WHO: GMWHO)を開催した。会合には世界52ヶ国から350人の若者が参加し、模擬WHA(World Health Assembly、世界保健総会)を開催した。WFUNAは、100を超える国々の国連協会から構成される国際NPOであり、国連の取組みに賛同し、その活動を強化・改善することを目的としている。 参加者は、気候変動、公害と健康、メンタルヘルス、抗菌剤耐性等のテーマについて議論を行なった。採択された宣言では、将来的なパンデミックから世界を守るためにパンデミック条約が緊急に必要であることが強調された。	感染症全般							●						リンク	

★	25	2024/11/5	WHO	将来的なパンデミック、ワクチン開発優先病原体	WHO study lists top endemic pathogens for which new vaccines are urgently needed	WHOによる研究の結果、新たなワクチン開発が緊急に必要な病原体として、A群溶血性レンサ球菌、肺炎桿菌を始めとする17種類がワクチン開発優先病原体としてリストアップ	WHOは、新たなワクチン開発が必要な病原体に関する研究結果をeBioMedicineに発表した。この研究では、国際的または地域レベルの感染症専門家の意見を踏まえ、地域別の優先病原体を選定し、その結果を統合して17種類のワクチン開発優先病原体をリストアップした。ワクチン研究が必要な病原体として、A群溶血性レンサ球菌、C型肝炎ウイルス、HIV-1、肺炎桿菌(<i>Klebsiella pneumoniae</i>)の4種類があげられた。さらなるワクチン開発が必要な病原体として、サイトメガロウイルス、インフルエンザ(広範囲の防御が可能なワクチン)、リーシュマニア sp、非チフス性サルモネラ菌、ノロウイルス、熱帯熱マラリア原虫、赤痢菌、黄色ブドウ球菌の8種類があげられた。さらに、ワクチンが規制当局の承認、政策の推奨、導入に近づいている病原体としてデングウイルス、B群連鎖球菌、腸管外病原性大腸菌、結核菌、RSV(Respiratory syncytial virus)の5種類があげられた。	A群溶血性レンサ球菌、C型肝炎ウイルス、HIV-1、肺炎桿菌、サイトメガロウイルス、インフルエンザ、リーシュマニア sp、非チフス性サルモネラ菌、ノロウイルス、熱帯熱マラリア原虫、赤痢菌、黄色ブドウ球菌、デングウイルス、B群連鎖球菌、腸管外病原性大腸菌、結核菌、RSV	●		●									リンク	
	26	2024/11/7	GHIT Fund	NTDs、トラコーマ	顧みられない熱帯病などの製品開発に約5.7億円の投資を決定、GHITとして初めてトラコーマに対する診断薬開発を支援	GHIT Fundは、2023年11月～2024年7月にかけて実施した公募案件の中から、GHITとして初めてのトラコーマの診断薬開発を始め、顧みられない熱帯病などの製品開発4件に約5.7億円を投資することを決定	GHIT Fundは、2023年11月～2024年7月にかけて実施した公募案件の中から、顧みられない熱帯病(NTDs)などの製品開発4件に約5.7億円を投資することを決定した。この中には、日本の(株)医学生物学研究所、米国のカーター・センター、Big Eye DiagnosticsがCDCの支援を得て共同で取り組むトラコーマに対する迅速診断検査キットの研究開発への投資(約2.8億円)が含まれる。トラコーマに対する助成はGHIT Fundとして今回が初めてとなる。そのほか、マラリアとシャーガス病に対する製品開発プロジェクト3件への投資も決定した。2024年9月末時点で、GHIT Fundは33件のプロジェクトに投資しており、累積投資額は約338億円となった。	NTDs、マラリア	●		●		●	●						リンク	
★	27	2024/11/7	CEPI	Mpox、Bavarian Nordic、MVA-BN	New study to assess mpox vaccine in pregnant women and infants	CEPIがEDCTPと共同で妊婦・幼児を対象としたMpoxワクチンMVA-BN (Bavarian Nordic社)の臨床試験を実施	CEPIは、妊婦・幼児を対象に、MpoxワクチンMVA-BN (Bavarian Nordic社)の臨床試験を2025年初頭からコンゴ民主共和国で実施することを発表した。MVA-BNは、WHOの事前承認を受けた唯一のワクチンであり、現在は成人・小児が対象となっている。今回の治験では、妊婦、授乳中の母親と2歳以下の幼児を対象にMVA-BNの安全性と免疫原性を評価する。ベルギーのアントワープ大学が治験のスポンサーとなり、キンシャサ大学がプロジェクト・リーダーを担当する。治験実施に当たって、CEPIが640万米ドル、Global Health EDCTP3 (欧州・開発途上国臨床試験プログラム3)が170万米ドル、合計810万米ドルの資金を提供する。今回の治験により、これまでワクチン接種の対象外だったハイリスクグループの人々もワクチンを利用することが可能になる。	Mpox		●	●		●							リンク	

注目記事星取ルール
ワクチンの開発状況
ワクチンや重点感染症に関するFAの戦略/方針
ワクチン開発関連において新規技術の活用